

NPO法人社会還元センター グループわ 会報

情報ギャラリー

第32号

情報ギャラリー第32号

発行日 2005年10月28日

編集 グループわ 広報部

発行者 納利春

発行元 NPO法人社会還元センター
グループわ

TEL (078) 743-8101 FAX (078) 743-3830

Eメール group-wa@wa-net.jp

ホームページ http://www.wa-net.jp

会員どうしの助け合いネットワーク

西区会などで検討はじめる

副理事長 三宅 慶忠

介護保険の対象にはならないが、会員のみなさんや家族の方が健康上の理由で、ちょっとした支援や手助けがあればと願う時があります。そんな時、私たち会員どうしで助け合おうという活動です。グループわでは「相互扶助事業実施要綱」をまとめて各区会でも検討をはじめています。

私たちグループわの仲間はボランティアを志して集まり、活動を続けています。私たちは必要とするところへ出向き、お役に立っています。そんな活動をしているのだから、仲間が手助けを求めているのなら、他に助けを求める前に、仲間内でそのニーズに応えるべきではないか、素朴な思いが起こるのは当然です。

そんな思いを現実のものにしたいとの願いを形にしたのが、グループわに信託された基金です。この基金を活用してグループわ会員の相互扶助制度を立ち上げるべく、わ事務局本部に検討委員会を設けて、1年を掛けて論議を進めてきました。その間、情報ギャラリーを通じて検討委員会の基本的な考え方をお知らせするとともに、この課題についてのアンケートも実施しました。

まずネットワークを

アンケートから相互扶助制度にかける期待度も十分伺えましたので、検討委員会はその成果を「会員相互扶助事業実施要綱」に纏めました。要綱では、困窮会員の近くの会員が原則的に手助け支援をすることとし

ています。親兄弟、親類縁者といえども身内だからといって常に助け合えるものでもありません。とにかく近隣の会員が相互に扶助することがこの事業の理念なのです。少しでも無理なく困窮会員仲間の手助け支援を企図したものです。

この要綱に即して会員相互扶助事業を成立させるには、近隣性、地縁性を具現した会員相互のネットワーク構築が不可欠です。このネットワークは、地域の地勢状況など反映させながら各区会で取り組みをお願いするほかありません。

西区でも独自案

実際の運用に当たっては、区会会員方に相互扶助理念をご理解頂き、ご協力願わなければ実施できません。西区会は、相互扶助基金創設に関った方もおられて、わ事務局本部からの制度案に積極的に応えて頂いています。西区会は、わ事務局検討委員会の纏めを踏まえながら実施可能とする西区独自の提案を策定しました。

理想的には全区一斉に事業実施のスタートができればいいのですが、足並みが揃わなければ、いつまでも

出来ない恐れがあります。全区に亘る事業であれば、区毎に運用が異なることは混乱を招くことにもなります。先駆的に取り組んでいる西区会の皆さんにパイロット的に相互扶助制度の運用を試みて貰い、そこから全区実施に及ぼしていけばと考えます。

本年度内に実施を

西区の三島会長と西区会案の纏めをされた方と、本部提起の案との摺合わせをしました。今後も協議調整をして、今年度内実施の目途をつけたいと思っています。相互扶助のネットの構築には区内会員がどのように所在しておられるか、一目瞭然に把握しておく必要があります。地図に所在をプロットする、その取り組みをして頂いております。

兵庫区会でも相互扶助制度について論議を頂いていると聞いています。会員お互い困った時助け合おうという気持ちを皆抱いておられると思いますが、それぞれに事情もあって手助け支援ができるかは難しいことではあります。相互扶助制度の趣旨を理解して頂き事業実施ができることを願っています。



神戸市民福祉顕彰 奨励賞を受賞して 理事長 納利春

グループわは昨年、環境関係で、今年は福祉関係で大きな賞をいただきました。全く地道に今日まで福祉、環境関係で実績を積み上げて来られた皆様の活動の賜ものです。神戸市民の福祉をまもる条例に市民福祉顕彰という表彰制度があり、日頃のグループわの活動を認め、更なる今後の活動を期待して、平成17年度の市民福祉顕彰奨励賞を贈るというものです。賞金も頂きました。

震災時のボランティア活動を経て、任意団体グループわを設立、”再び学んで他の為に”をモットーに、昨年にはNPO法人格を取得、その活動範囲を広げ、広域的な市民福祉活動に取り組み、今後の活動が期待されるとしています。

受賞に対して、こども家庭センターから祝電をいただいたこと、また灘区会でも神戸市社会福祉協議会理事長感謝状を頂いたことを付記しておきます。

